

長岡市の子どもの発達支援について

～子ども一人ひとりを大切にした多様な育ちを切れ目なく支援する取り組み～



長岡市教育委員会子ども未来部

こども家庭センター 副所長 高野 理恵

長岡市教育委員会教育部

学校教育課特別支援教育係 係長 船山 和利

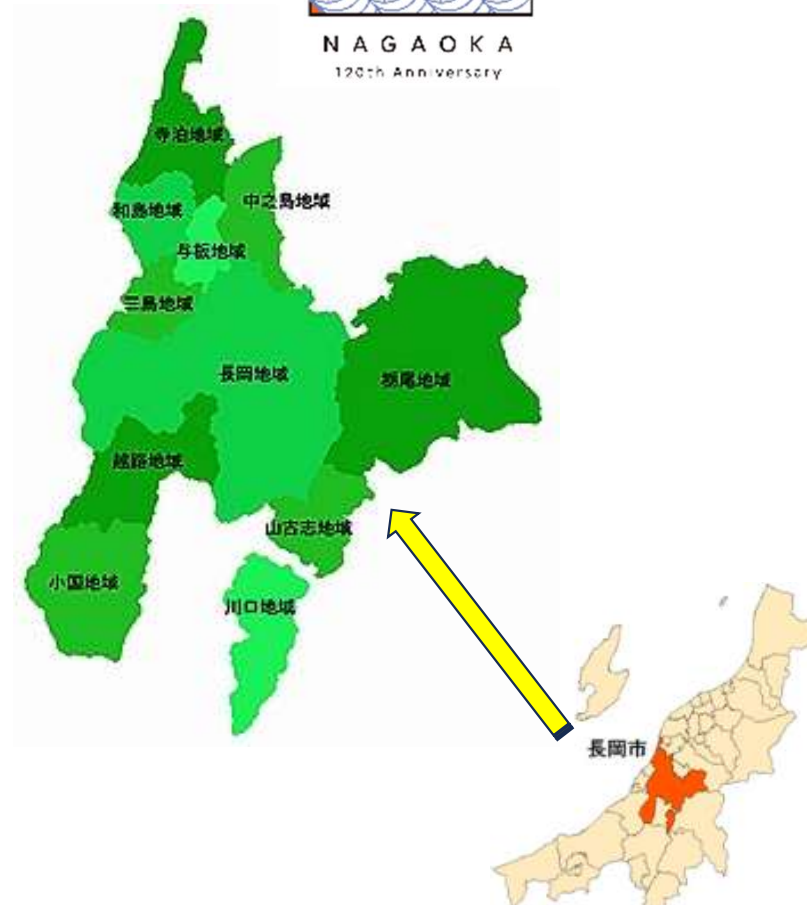
1 長岡市について

長岡市（ながおかし）



新潟県の中南部（中越地方）に位置し、
県内では新潟市に次いで第2位の人口を
もつまちで、今年、市政120周年を
迎えました。

市中央には日本一の大河・信濃川が流れ
守門岳（すもんだけ）から日本海まで
11地域で構成されています。



米百俵の精神



戊辰戦争で困窮した長岡藩に贈られた米百俵を、生活に使わず教育に回した故事から生まれた考え方。

目先の利益よりも将来の人材育成を重視する精神を示しています。

長岡花火

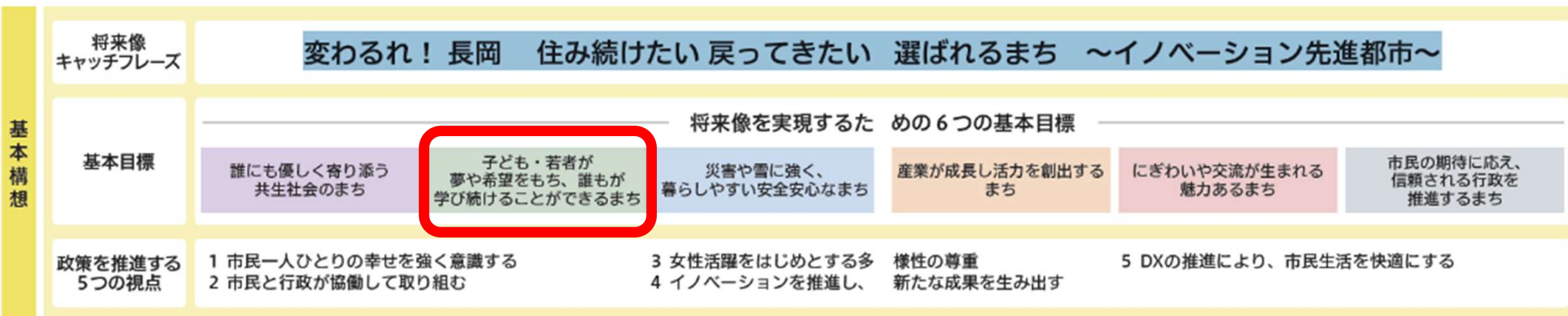


長岡空襲で亡くなった人々の慰霊と、平和への祈り、復興への願いを込めて始まった花火大会。

今もその思いを受け継ぎ、日本有数の規模で打ち上げられています。

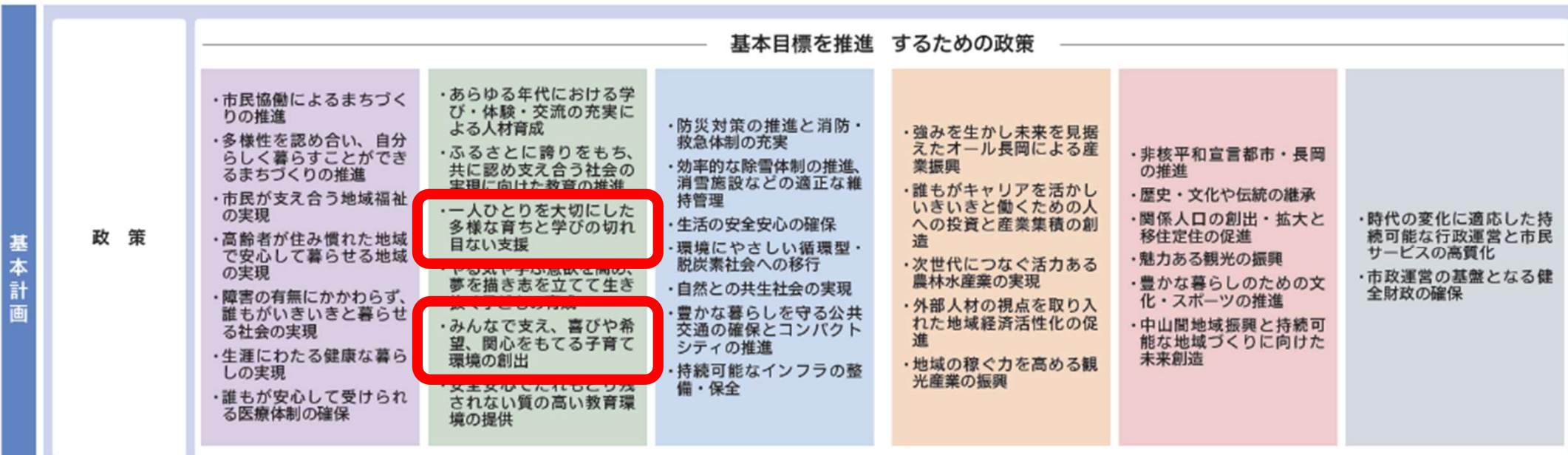
未来への投資として人づくりを大切にする「**米百俵の精神**」と
慰霊・平和・復興を願う「**長岡花火**」は、ともに、**困難を乗り越え
次世代へ希望をつないできた長岡の大切な象徴**であり、今を生きる
私たちにも脈々と受け継がれています。

～長岡市の市政～【長岡市総合計画】

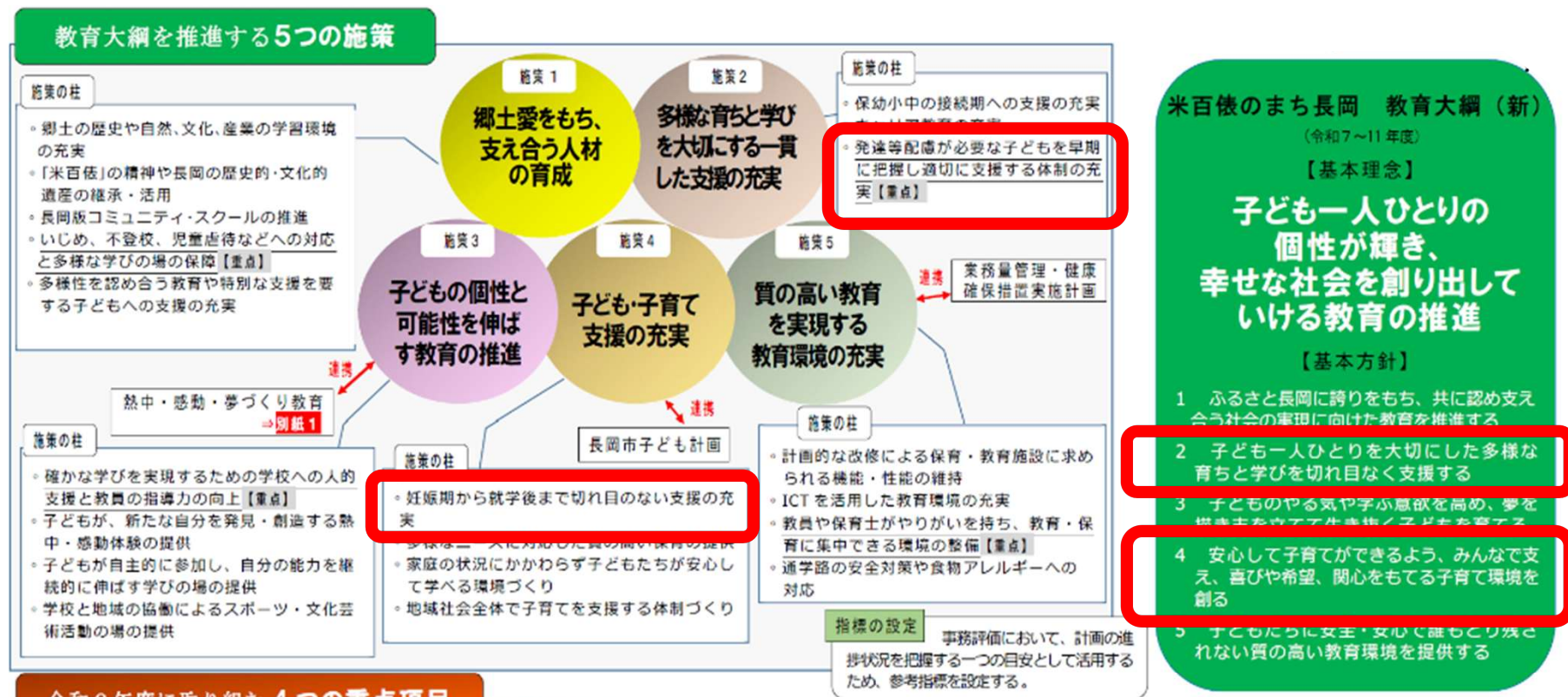


視点を意識しながら政策・施策を推進

政策の取組により基本目標を推進



～長岡市の教育～ 【教育大綱・教育振興計画】



令和8年度に取り組む4つの重点項目

【施策1】

不登校支援の充実

- ・不登校状態にある児童生徒の社会的自立や、校における不登校の未然防止につなげるため、校、関係機関と連携し、支援の充実を図る。
- ・不登校児童生徒が安心して過ごせることができた校内教育支援センターなどの居場所の整備。
- ・新たな不登校を生まない取組の推進。
- ・相談から登校の状況に応じた支援までをワンストップでつなぐ支援体制の強化。

【施策2】発達支援の「長岡モデル」の充実

- 発達等配慮や支援が必要な子どもを早期に把握し、乳幼児期から就学後まで、一貫した切れ目のない相談・支援体制の充実を図る。
- みらいのたねサポートチームを中心に多分野多職種連携による支援体制の充実
- 職員のスキルアップのための研修による保育現場の対応力と保育の質の向上
- 学校・園などへのアウトリーチによる専門性の高い支援体制の充実
- 就学前後の連携・情報網の引き継ぎ方法統一など、切れ目のない適切な支援の推進

【对策3】

確かな学びの実現

これからの社会を生き抜くための確かな学びに
向かう子どもたちを育成する。

- 子どもの興味に応じた学びと体験を充実させ、
個性と可能性を伸ばす授業づくりを支援し、魅力
ある学校・園づくりを進める。
- 「自分に合った」「多様な関わりを生かす」「実
体験を伴う活動的」の3つの学びの視点から、
子どもが主役の授業イノベーションの充実を図
る。【別紙2】

【施策5】 働きやすさとやりがいの
両立による教育・保育の質の向上

- ・教員や保育士がワーク・ライフ・バランスを整えながら研究と自己啓発に励むことで、専門性を生かした指導と保育の充実にを図る。
- ・教員が働きやすく、やりがいをもって教育活動を行えるよう、「業務量管理・健康確保措置実施計画」を周知し、環境整備を進める。
- ・ICT 活用と業務支援システムにより教務・保育事務の負担を軽減し、子どもと向き合う時間の確保や自己研鑽の時間を創出する。

～長岡市の現状(R8.4.1)～

- 人口 250,869人
- 世帯数 110,691世帯
- 出生数 1,275人(R6)
- 子どもの数(0～18歳) 37,795人



就園、就学者の状況
(小・中学校、総合・高等支援学校はR8.5.1現在)

園・学校	施設数	登園・進学人数
認可保育園・幼稚園	40園	2,215人
認定こども園	40園	4,818人
認可外・地域型保育施設	30施設	236人
小学校	52校	11,014人
中学校	27校	6,123人
総合支援学校(小学部)	1校	99人
総合支援学校(中学部)	1校	55人
高等総合支援学校	1校	135人

～長岡市の現状

子どもの数は年々減っているが、発達障害等で支援が必要な子どもの数は増えている。

● 未成年者（0歳～18歳）（概数）

R7.4.1 約37,000人

R4.4.1:約40,000人

※R4と比較すると7.5%の減少

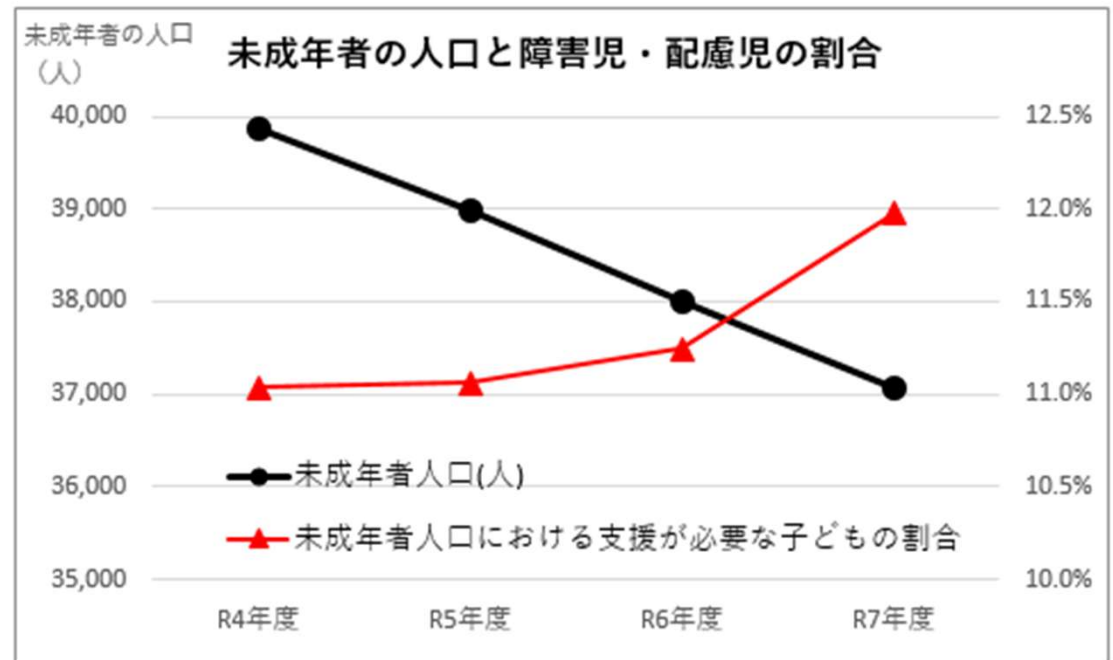
● 支援が必要な子どもの数（概数）

R7.4.1 約4,500人

[就学前] 約1,000人 [就学後] 約3,500人

R4.4.1:4,500人

※人数としてはほぼ横ばい



2 長岡市の発達支援の取組み

I 組織体制

長岡市の子育てに関する組織体制

- ◆全国的にも珍しく、教育委員会の中に母子保健・児童福祉・保育・教育に関する組織を配置（平成19年度～）
- ◆家庭や地域、園・学校が一体となり、オール長岡で、子どもの育ちを見守る体制を整備した。
- ◆妊娠・出産から子どもの成長とライフステージに応じた、切れ目のないきめ細かな支援を行っている。

長岡市教育委員会



組織体制について

- 平成19年度、「母子保健」や「児童福祉」「保育」などの分野に関する部署を教育委員会に「教育」の機能と一体的に配置し、妊娠・出産から青年期まで切れ目のない支援を行う組織体制を整備
- 平成20年度、発達等により配慮や特別な支援が必要な児童に早期に気づき、就学前から就学後までの継続支援を目的として、「こどもすこやか応援チーム」を結成
- 10数年が経過し、加速する少子化や配慮が必要な子どもの増加をはじめ、さまざまな社会情勢の変化などにより、「未就学期の支援強化」「就学に向けた適切なつながりに必要な環境づくり」について再検討が必要との声が上がった。
- そのため、令和4年度末、関係課の担当者（係長級）により構成される「子どもの発達支援検討プロジェクトチーム」が発足
- 令和5・6年度と検討の結果、専門職増員による組織体制強化に加え、持続可能な多職種連携チーム「みらいのたねサポートチーム」の結成に至った。

2 長岡市の発達支援の取組み

Ⅱ 支援の体制と内容

みらいのたねサポートチーム(みらサポ)

心理士・保健師・保育士等の多職種の専門職が連携し、教育委員会の各部局を横断したチーム。
子どもをまん中に、一人ひとりの個性や状況に応じた適切な支援を行うとともに
子どもに関わる支援者がつながり、就学前から就学後まで、切れ目なく包括的な支援を行う。

就学前

心理士・保健師・保育士が
チームで園を訪問

心理士等による専門的評価をもとに、支援が必要なお子さんに早期に気づき、適切な支援を行うことで就学前から就学後まで切れ目のない支援につなげる

アウトリーチ支援

- ◇ 専門職が現場(園・学校等)に出向いて助言・支援
- ◇ 乳幼児期から就学後まで切れ目のない支援

アドバイザーネットワーク ～みらサポ支援の中核的役割～

どこに相談が入っても適切な支援につながる支援者同士が連携する仕組み

就学後

専門知識をもつ教員経験者等が
学校等を訪問

専門的な評価をもとに、課題の改善に向けた環境調整など、具体的な取り組みについて学校等に助言することで、適切な支援につなげる。

みらいのたねサポート相談会

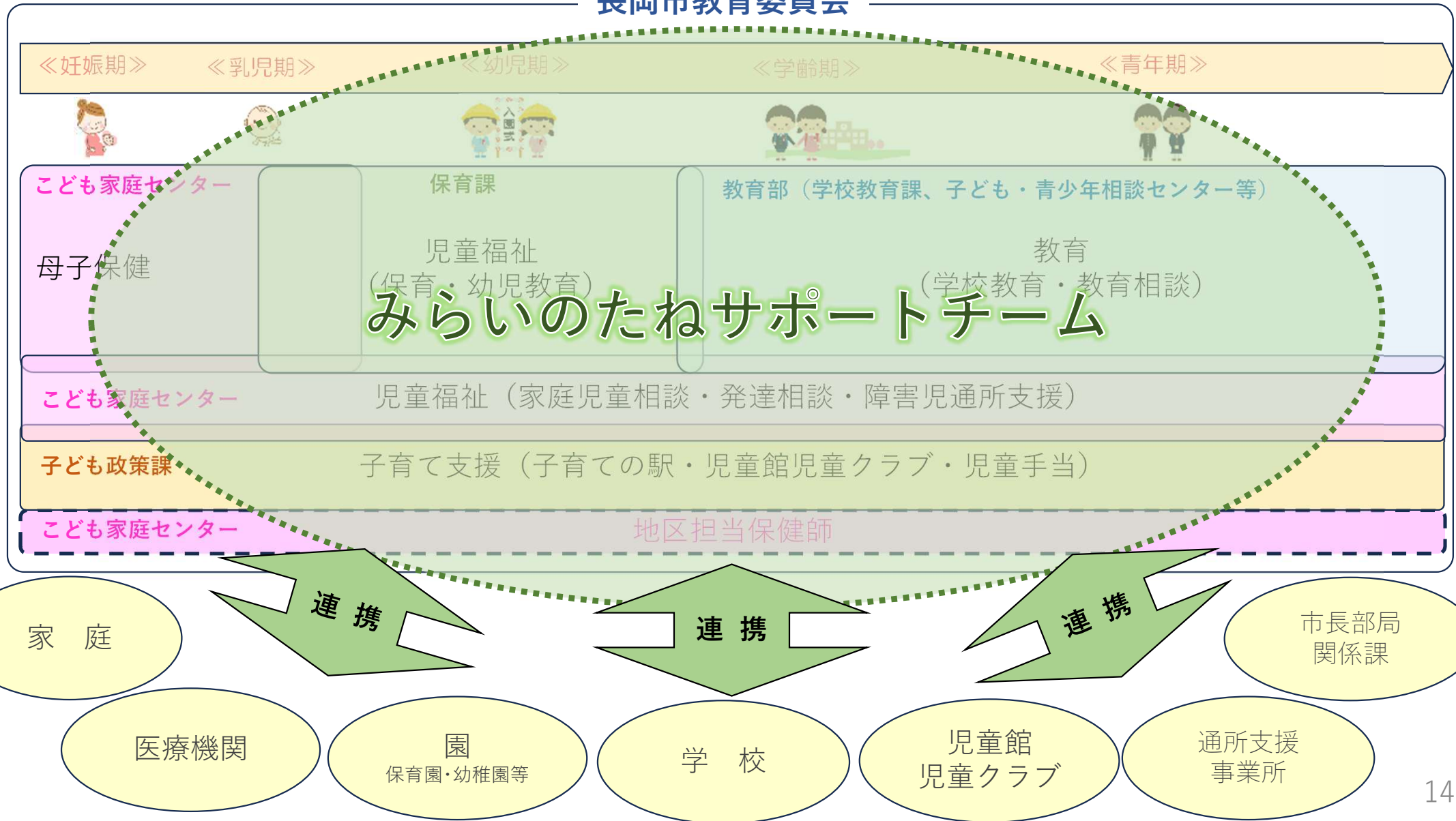
子どもの発達や問題行動等さまざまな悩みを抱えている保護者からの相談に応じる個別相談会。「こども家庭センター」及び「みらいのたねサポートチーム」が関わるケースのうち、支援者が必要と判断したケースの保護者が対象。

みらいのたね学習会

～現代版米百俵 ながおかこどもの育ち合同学習会～

多職種が集まり、1つの事例について深く考える機会をもつことで、支援者自身のエンパワメントと支援者同士の連携強化を図る。

長岡市教育委員会



「みらいのたねサポートチーム」アドバイザーネットワーク

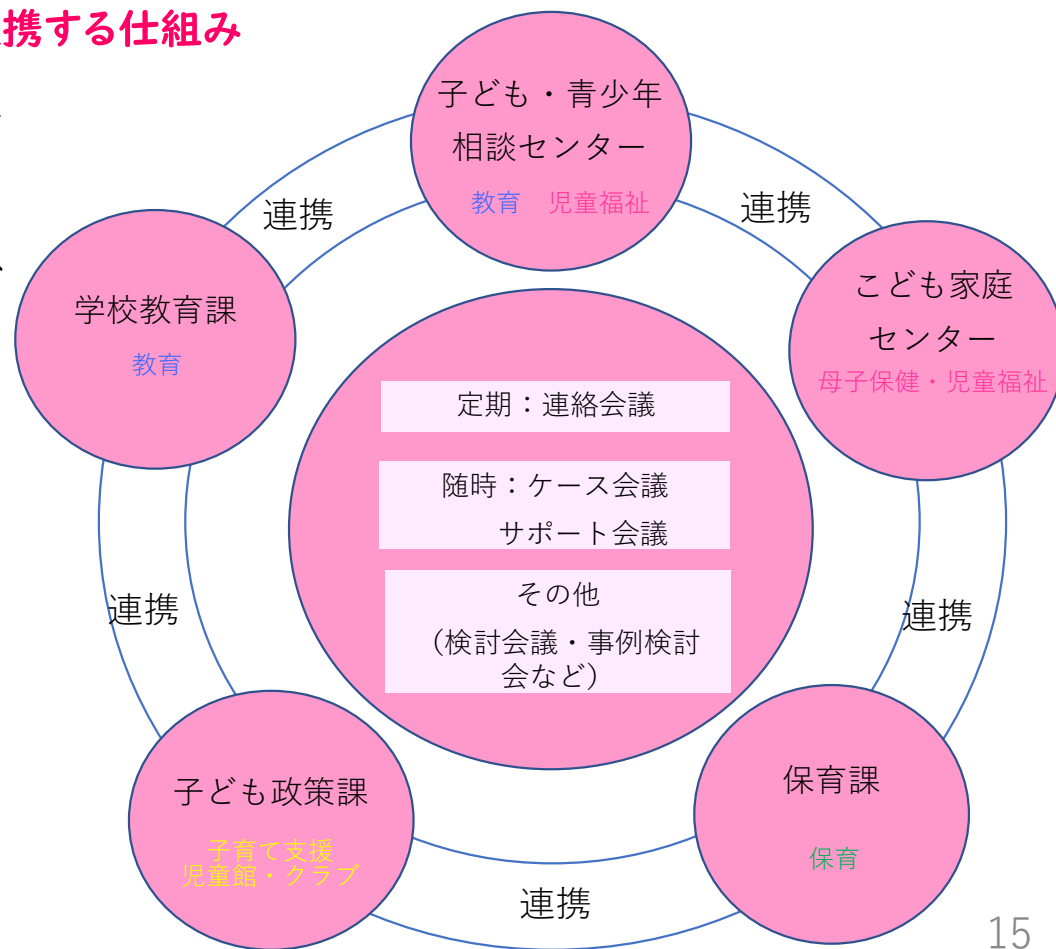
～みらサポ支援の中核的役割～

教育委員会内における子どもの支援に関する相談対応のネットワークを強化
どこに相談が入っても適切な支援につながる支援者同士が連携する仕組み

各部署（右図小ピンクの円）に所属するアドバイザー同士が連絡会議等を通してつながる。

▶どこに相談が入っても、相談者（本人・保護者・園・学校）に寄り添って聞き取りを行い、適切な支援者につなぐ体制を強化

▶支援者同士が連携し、相談しやすい関係づくりを構築



「みらいのたねサポートチーム」アウトリーチ（就学前）

主に心理士・保健師・保育士・発達支援アドバイザーが園に訪問し、現場の皆さんと一緒に支援方法を考えます。心理士等による専門的評価をもとに、支援が必要な子どもを早期に把握し、適切な支援を行うことで就学前から就学後まで切れ目のない支援につなげます。

こんな相談に対応します

職員全員で子どもの共通理解を深め。子どもへの適切な支援を現場で共有したい



園で工夫して対応しているが、これで合っているのか不安

「落ち着きがない」「お友達と上手に遊べない」「行動がなんとなく気になる」など、対応に悩んでいる

【みらいのたねサポートチーム訪問までの流れ】

相談依頼
票提出



日程調整



園訪問



園訪問後
フォロー

1回の訪問で5名
程度の観察になる
ように調整

- ・クラス観察
- ・観察後に話し合い

フォローの内容は、必
要に応じ、子どもの状況
に合わせて柔軟に対応
します



アウトリーチを利用した園の声

- ・専門職の方々が的確な見立てを行い、次へどうつなげていくかも一緒に考えてくださり、とてもありがたく感じました。
- ・専門職の方々が園での様子を見て、第三者の立場から保護者にお話しただけのことが、ありがたいです。

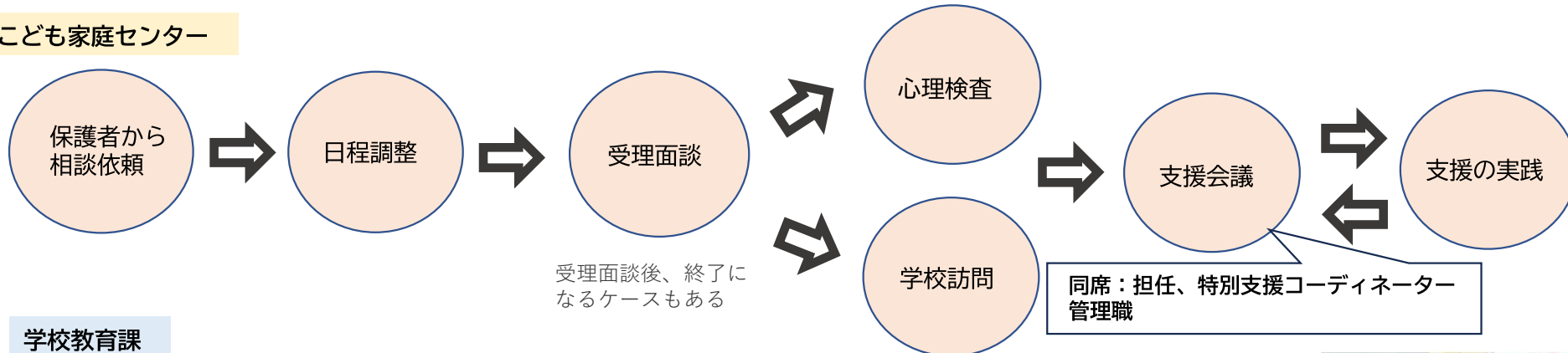


「みらいのたねサポートチーム」アウトリーチ（就学後）

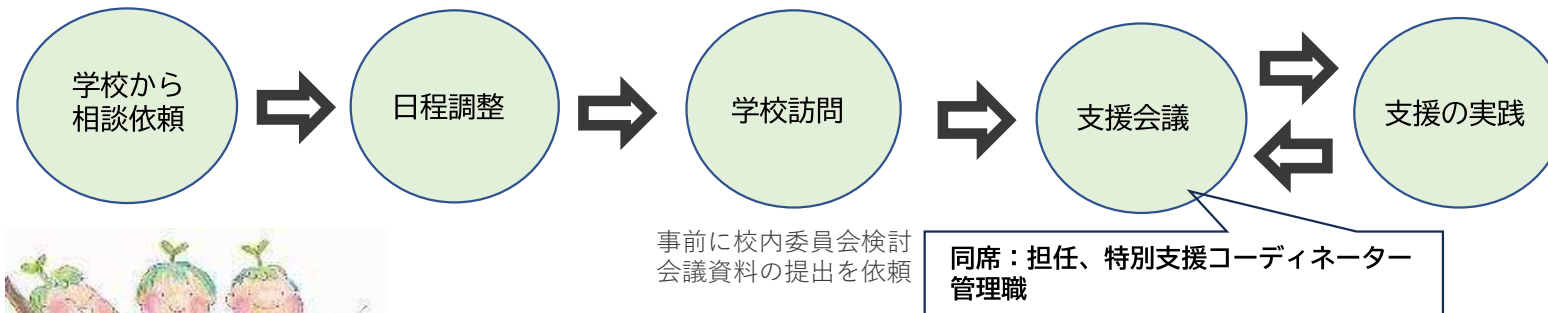
発達特性のある児童・生徒に関する保護者・学校からの相談に応じます。必要に応じて、発達支援アドバイザー等が学校現場へ直接出向き、児童・生徒に合った支援方法や環境調整などについて現場の先生と一緒に考えます。状況に応じ、通級指導教室と連携を図っていきます。

～みらいのたねサポートチーム支援の流れ～

こども家庭センター



学校教育課



みらいのたねサポート相談会



臨床経験豊富で専門的知見のある医師が、子どもの発達や問題行動等さまざまな悩みを抱えている保護者からの相談に応じる個別相談会。医師のほか、地区担当保健師や相談員など支援者が事前に面談・調整を行った上、当日同席します。

対 象

「こども家庭センター」及び「みらいのたねサポートチーム」が関わるケースのうち、支援者が必要と判断したケースの保護者
原則、対象者（保護者）が同意、希望するケース

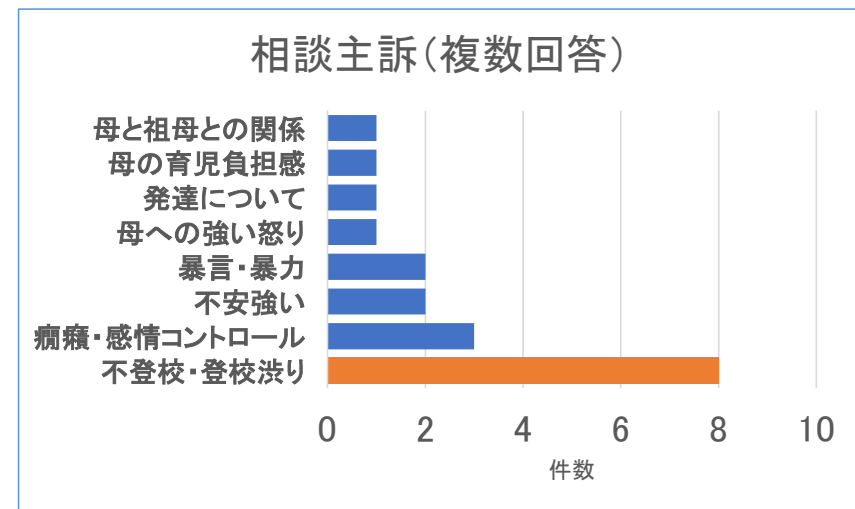
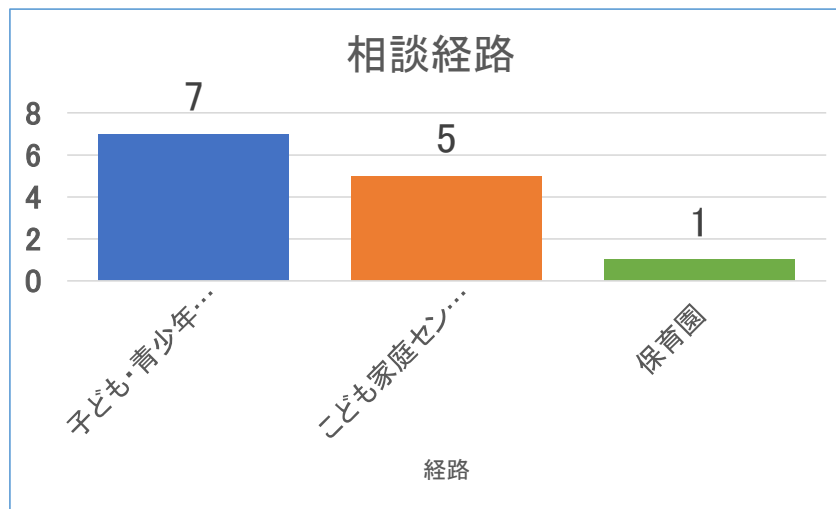
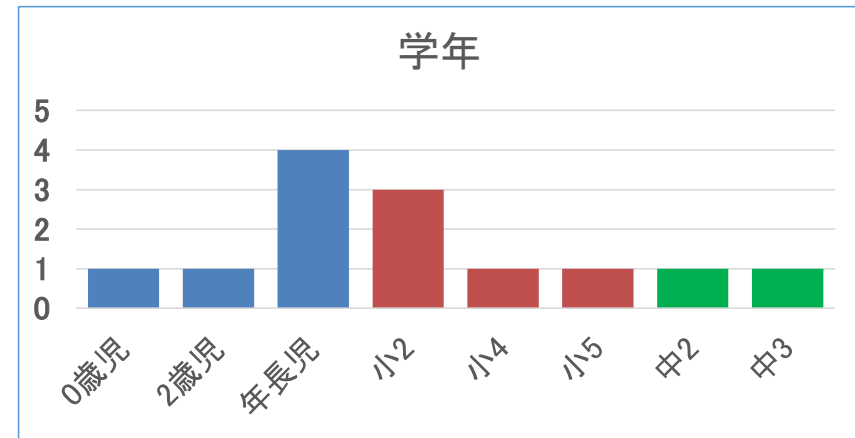
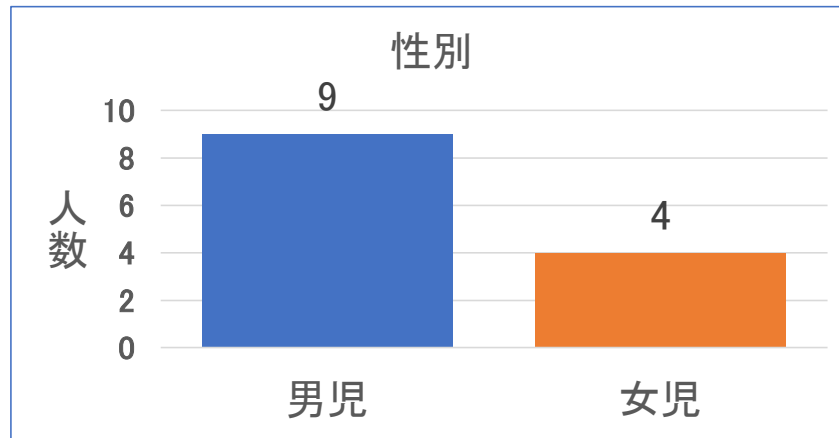
～小学生 行動面の課題があった事例～

- ▶ 父母は学校から医療受診や服薬をすすめられたが、そこまで必要なかという思いがあり、迷っていた。
- ▶ 医師より本人の状況、発達の課題、学習の積み重ねがなく、今後さらに適応が難しくなることが考えられることから、個別での対応、医療受診、必要に応じて服薬が必要であると助言。
- ▶ 学校と連携を図り、発達通級を利用し、個別の学習や自己肯定感を高めるかかわりを開始したほか、医療受診の予約につながった。



みらいのたね相談会 令和7年度実績

年6回開催 相談者数13人



みらいのたね学習会

現代版米百俵 ながおかこどもの育ち合同学習会



支援者が対応に苦慮している等、実際の事例について、医療・福祉・保育・教育など、さまざまな分野の支援者がそれぞれの立場でアイディアを出し合い、支援者のエンパワメントを図る学習会を定期的を開催。

- ◇ 事例の理解 処遇検討ではなく、事例を学び理解する
- ◇ 支援者の支援 事例学習を通し、支援者自身の表現力づくり、実践力の向上、エンパワメントを目指す
- ◇ 多職種連携 多面的な視点で意見を出し合うことで、支援者の関係力をつけるとともに、医療・教育・保育・保健・福祉等のよりよい連携システムを構築する
- ◇ よりよい支援 子ども達の心身の健康や子育て支援のためのより良い支援、施策につなげる



◎「目からウロコ」の助言で、肩の荷が少し降りた気がした。
◎学校・医療・福祉・保健との連携方法や、経済支援策など、様々な分野の情報が今後の支援の参考になった。

参加した支援者の声

◎意外な選択肢があることや、スモールステップでよいこともわかり、ホッとした。



2 長岡市の発達支援の取組み

Ⅲ 連携のためのツール

就学前後の引継ぎについて

就学前後の引継ぎについて、園・学校・市(教育委員会)それぞれに課題(以下)があったため、引継ぎ資料の見直し、様式を統一しました。

- ▲ 園 : I園I校ではない中で作成する園の負担が大きい。学校に伝わっているか不安
- ▲ 市 : 就学前の支援情報を学校等現場に伝える手段がない。(保護者任せ)
- ▲ 学校 : 学校側に必要な情報となっていないため、重要視されていない。

〈従来〉

① 保育要領・指導要録 [園⇒学校]

② 就学支援シート [園⇒学校]

※すこやかファイル不所持で必要者

③ その他

各園・学校作成の任意様式又は口頭
(提出方法や項目等統一されていなかった。)



見直し
様式統一

〈R7〜〉

① 保育要領・指導要録 [園⇒学校]

② 就学支援シート [園⇒学校]

※R7〜新様式(就学相談申込様式と同項目)

③ 미래のたねサポート情報[市⇒学校]

※R7新設:入学予定者全員作成

④ 未来のたね引継ぎリスト[園⇒学校]

※R7新設:在園児全員作成

就学前後の引継ぎについて

みらいのたねサポート情報[市⇒学校]

長岡市立〇〇小学校 みらいのたねサポート情報

	園名	氏名	ふりがな	性別	生年月日	こども家庭センター					学校教育課	その他配慮事項
						こども発達相談室	ことばの教室	アウトリーチ (みらサポ)	健診指導 (1歳半・3歳)	5歳発達相談会	就学相談	
例	家庭センターこども園	長岡 花子	ながおか はなこ	女	令和元年1月1日	○		○				

このほか、教育委員会内部では、みらサポチーム内で
支援情報の共有を定期的に行っています。



就学前後の引継ぎについて

みらいのたね引継ぎリスト[園⇒学校]

〇〇保育園 長岡市立〇〇小学校 みらいのたね引継ぎリスト

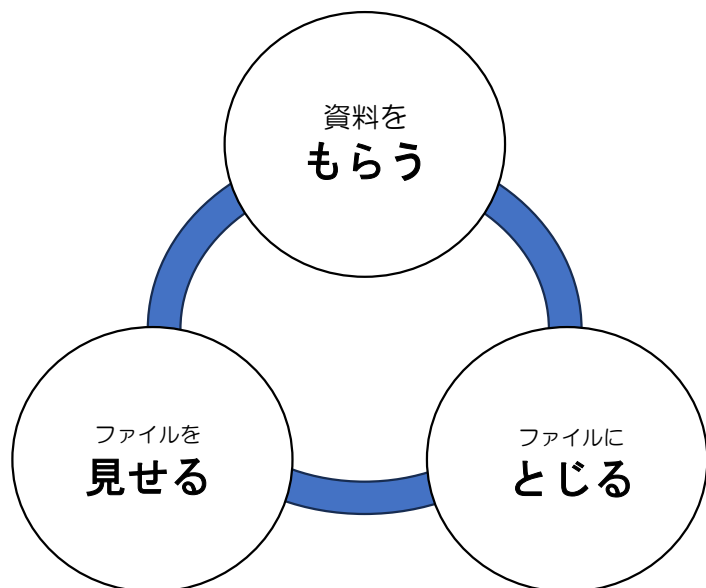
	氏名	ふりがな	性別	生年月日	すこやかファイル	就学支援シート	個別指導計画	児童発達・保育所等訪問支援	生活			言語			発音・聞こえ	
									衣服着脱	食事	排泄	言語理解 (指示理解)	言語表出	認知発達	発音等	聞こえ
例	長岡 花子	ながおか はなこ	女	令和元年1月1日	○	○	○		全ての項目について、配慮を要する苦手な項目には △ ※対人関係：リーダー性のある子には ◎ を入れる。							
1																
2																
3																

運動		対人行動		身体・健康状態				保護者・家庭環境	その他配慮事項	
粗大運動	微細運動	対人関係	集団行動	身長 (cm)	体重 (kg)	病気・アレルギー	特記事項			
△ を入れる。					150.5	45.5	小麦	パン・麺不可	外国籍	集団の中でも〇〇〇〇さんと一緒に場面では落ち着いて行動できる。

相談支援ファイル「すこやかファイル」

本人及び保護者が、ライフステージに応じて適切な相談や支援を受けるために活用するファイルです。

園・学校、医療機関や相談機関などからもらったお子さんの資料、自分たちで必要だと思ふ資料などを閉じて、成長の段階に応じて、いろいろな場面で支援者に見せたり、保護者や本人自身の理解のために活用してもらうことを願ってつくられました。



現在進行形

本人（保護者）と支援者をつなぐツールとしてでなく本人（保護者）が自分自身を知っていく自己理解につなげられるよう、ファイルの改訂についても、みらいのたねサポーターチームのメンバーで検討中です。

誰でも気軽に手に取って使ってみることができるようホームページに掲載し、お気に入りのファイルに綴って活用いただけるよう積極的に促していきます。

資料を引き継いだ小学校では…

みらいのたねサポート情報[市⇒学校]

[illegible]

みらいのたね引継ぎリスト[園⇒学校]

[illegible]

個別最適な学びの
実現を目指す



A cartoon illustration of a woman with short dark hair, wearing a red sweater, sitting at a desk. She is looking at a flowchart on a piece of paper. A thought bubble above her head contains the Japanese word '支援' (support). The flowchart on the desk shows a process flow with boxes labeled '申請' (application), '審査' (review), '決定' (decision), and '実施' (implementation). There are also boxes for '申請書' (application form), '審査書' (review form), and '決定書' (decision form). The woman is holding a pen and has a thoughtful expression.

必要に応じて、個別
の計画類を作成し、

学級編制に十分に活用したりし、



26

資料を確認し、

就学時健診の場で
直に様子を見たり、

資料を確認し、



3 現在の課題

ここまでで、体制整備はおおよそできたが、まだまだ、道半ば…むしろここからが本当の勝負！！
今後さらなる関係者の連携強化による“ブラッシュアップ”と“支援者全体への理解浸透”が必須

① 現場の理解・定着が不十分

(学校・園へのわかりやすい周知や研修などにより機能的連携の促進と資質向上)

② 保護者との合意形成や連携の難しさ

(支援の意図や必要性を共有し、保護者の理解を得るまでに丁寧な関わりが必要)

③ 人材・社会資源の不足

(専門職(医師・心理士・専門知識の高い教員・保育士等)、専門病院、質の高い事業所不足)

⇒特効薬がない。一足飛びに解決しない問題。だからこそ、① ②が重要。

④ 予防的支援の効果の可視化の難しさ

(支援の成果は長期的視点が必要で、未然防止の効果や変化を捉えにくく、評価が困難)

⇒一行政ではかなりハードル高め(国・大学などの研究機関との連携を模索中)

① 現場の理解・定着が不十分

(学校・園へのわかりやすい周知や研修などにより機能的連携の促進と資質向上)

② 保護者との合意形成や連携の難しさ

(支援の意図や必要性を共有し、保護者の理解を得るまでに丁寧な関わりが必要)

⇒現場の理解と意識改革、資質向上のための研修など対応策

- ▶ まずは、関係支援者全体で構えの再確認。
(私たちが目指すのは、子どもたちの〇〇な姿だよね!)
- ▶ 関係機関の役割分担の明確化。
(役割が重複していないか、保護者に対して異なる(不正確な)助言をしていないか)
- ▶ 学齢期ごとの現場の実情を知る機会の設定。
(幼保は小学校を、小学校は中学校を、中学校は高等学校を知らなければ、具体的な助言は不可能)
- ▶ 関係支援者が共通理解をもって、各現場への周知・研修を進めていく
(現場に伝わるアプローチ、保護者支援が見える化し共通認識を図る。)

子どもを中心においた保護者との連携

子の学齢期がまだ低い保護者ほど…

- ① 自分の子だけを見て、一生懸命育ててきたため、「特性のある」とはどのような状態なのかが、分からない。
- ② 自分の子に「特性がある」と感じ取った時から、不安に苛まれる …（落ち込み、罪悪感、反発、攻撃 etc.）
- ③ 保護者はどうにか「ノーマルでありたい」と願い、子に無理をさせたり、実態に合わない要求をしてきたりする。
（「とにかく通常学級で!」「個別に声をかけて欲しい」「高校へ進学し—」「将来は——…」）



選択場面において、可能性のある選択肢をできる限り挙げ、それぞれに必ず「**メリット**」「**デメリット**」を示す。

- ▶ 支援者側から「こうすべき!」と結論を言わない。
- ▶ それぞれの場面において、どんな選択肢があるのかを伝える。（選択肢を増やす、考えてもらう、考えさせる）
- ▶ 選択肢それぞれについて必ず「**メリット**」と「**デメリット**」を具体例を用いて説明する。

「通常学級」か「特別支援学級」かを考えてもらう場面ならば…

例) ① 1年1組(通常学級)にいと、常にたくさんの友達と大勢でにぎやかな生活が送れますね。

だけど大勢いるから、〇〇さんが授業中に困ったことがあっても、〇〇さんだけの近くにいてあげることはいできない
のです。 (困ったままだとどうなるでしょうか? ご本人はどんな気持ちや状態になるでしょうか?)

② □□学級(特別支援学級)にいと、〇〇さんのペースに合わせて、ゆっくり丁寧に授業が進みます。

「分かること・できること」が必ず増えるかと思います。

その替わり、1年1組のみんなとは別々の授業時間が増えることになります。 (ご理解いただけますか?)

どちらが安心ですか?? (この先、高学年、中学生になった時(大人になった時)、どんな〇〇さんでいてほしいか?)



【そうすると、】

- ◆ 保護者が子どもの実態と在籍を比較し始める → **現実的な今後の姿をイメージする。**
- ◆ 子の実態に合った、具体的な支援方法があることを知り、安心して始める。

教育委員会に母子保健・保育・児童福祉・教育が配置されている長岡の強みを最大限生かし、子どもと保護者を切れ目なく支えるために、これからもずーっと、そしてより一層の連携とパワーアップを図っていきます！！



まずは、9/18の会議写真に最後は、9/29アドバイザーネットワーク会議の写真に差替えます



ご清聴ありがとうございました。